

レタスの需給動向

調査情報部

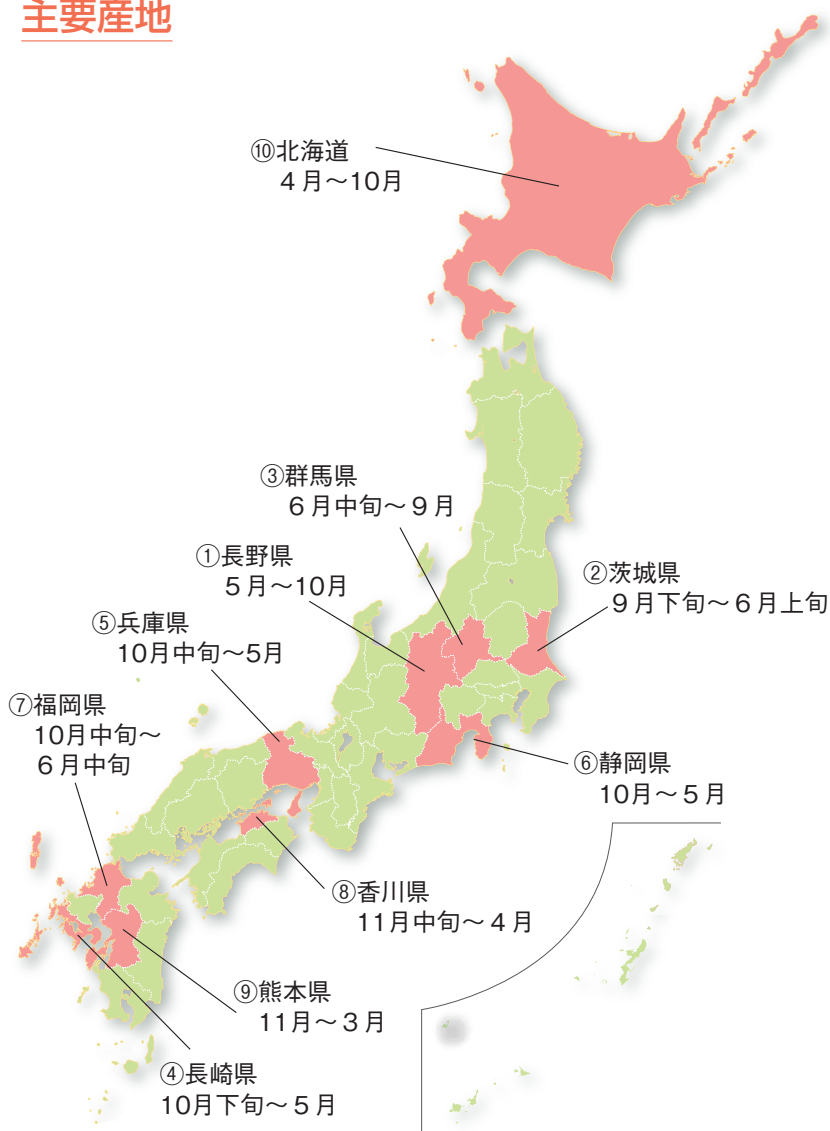
主要産地



結球レタス（茨城産）



リーフレタス（長野産）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

レタスはキク科の野菜で、原産地は地中海沿岸から西アジアであるといわれている。日本での栽培の歴史は古く平安時代の文献にも記録が残っているが、当時、栽培されていたのは中国を経由して渡来した「掻き^かチシャ」という不結球タイプであった。

レタスは、形状によって、結球レタス、リーフレタス（結球しない葉レタス）、立レタス（半

結球コスレタス）、茎レタスの4つに分類される。結球レタスは、さらにバターヘッドとクリスピーヘッドに分類される。前者はサラダ菜に代表される葉が柔らかく油滑感のあるタイプ、一方、後者は明治時代から栽培が始まったバリバリした食感のもので、食の欧米化に伴い米国から導入された品種の栽培面積が急増し、現在の主流となっている。

作付面積・出荷量・単収の推移

平成30年の作付面積は、2万1700ヘクタール（前年比99.5%）と、前年に比べてやや減少した。

上位5県では、

- ・長野県 6,160ヘクタール（同100.7%）
- ・茨城県 3,710ヘクタール（同100.5%）
- ・群馬県 1,330ヘクタール（同 95.7%）
- ・兵庫県 1,200ヘクタール（同 97.6%）
- ・福岡県 1,140ヘクタール（同101.8%）

となっている。

平成30年の出荷量は、55万3200トン（前年比102.0%）と、前年に比べてやや増加した。

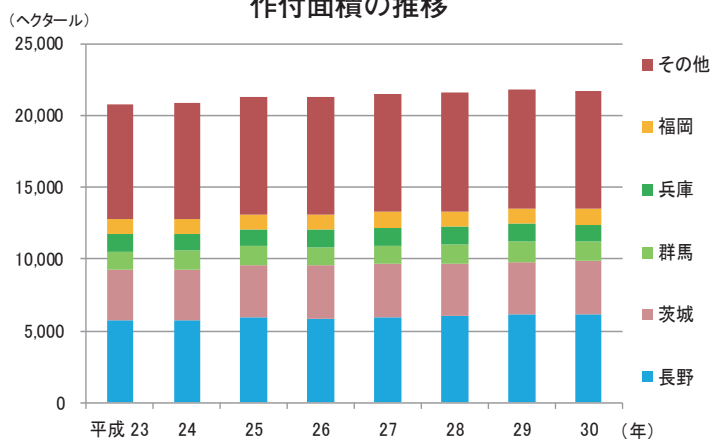
上位5県では、

- ・長野県 202,700トン（同 98.4%）
- ・茨城県 86,600トン（同102.9%）
- ・群馬県 43,500トン（同 94.0%）
- ・長崎県 30,500トン（同106.6%）
- ・兵庫県 27,500トン（同111.3%）

となっている。

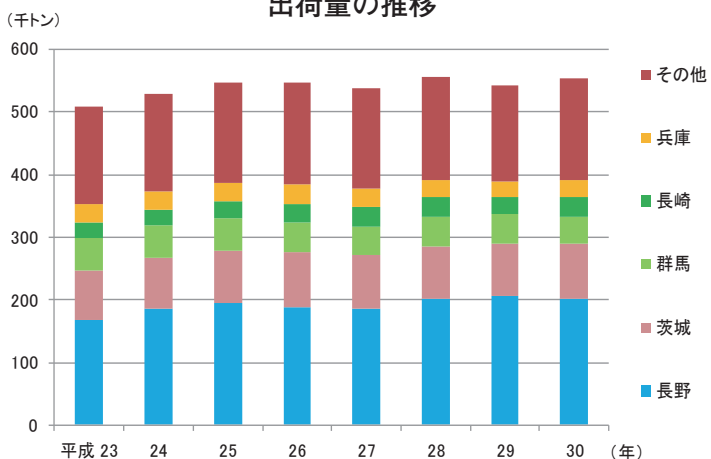
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、長崎県の3.57トンが最も多く、次いで群馬県の3.46トン、長野県の3.39トンと続いている。その他で多いのは、北海道の2.86トンであり、全国平均は2.70トンとなっている。

作付面積の推移



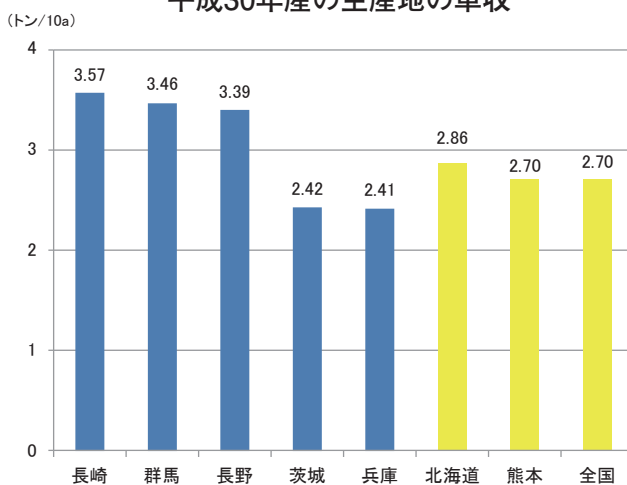
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

出荷量の推移



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

平成30年産の主産地の単収



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成30年産）」

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い県および全国平均。

作付けされている主な品種等

レタスは固定種の交配育種や異株選抜が行われてきたが、育成には広大な圃場と時間が必要であり、また原種特性を維持する技術と経験も必要とされる。採種を繰り返すことで特性が変化することから、ある程度の期間が経過すると品種が入れ替わっていく。

また、冷涼な気候を好むことから、夏場は長野県や群馬県の高冷地、冬場は兵庫県や香

川県などの温暖な地域へ産地が移行し、それに伴い栽培品種も多岐にわたっている。出荷時期によって、春レタス（4～5月）、夏秋レタス（6～10月）、冬レタス（11～3月）に区分される。カット野菜などの業務用の需要も多いことから、加工・業務用や植物工場用の品種も開発されている。

都道府県名

主な品種

長野県 ウィザート、エスコート、ルシナ66、ファンファアレ

茨城県 ラプトル、春P、クールガイ、サウザー、サマーガイ、ウィサードユースフル、

群馬県 マイヤー、スターレイ、ウィザード、シニア

兵庫県 ラプトル、スマイリー、ベルデ7、ビブレ、レグナム、エレガントコンスタント、アモーレ

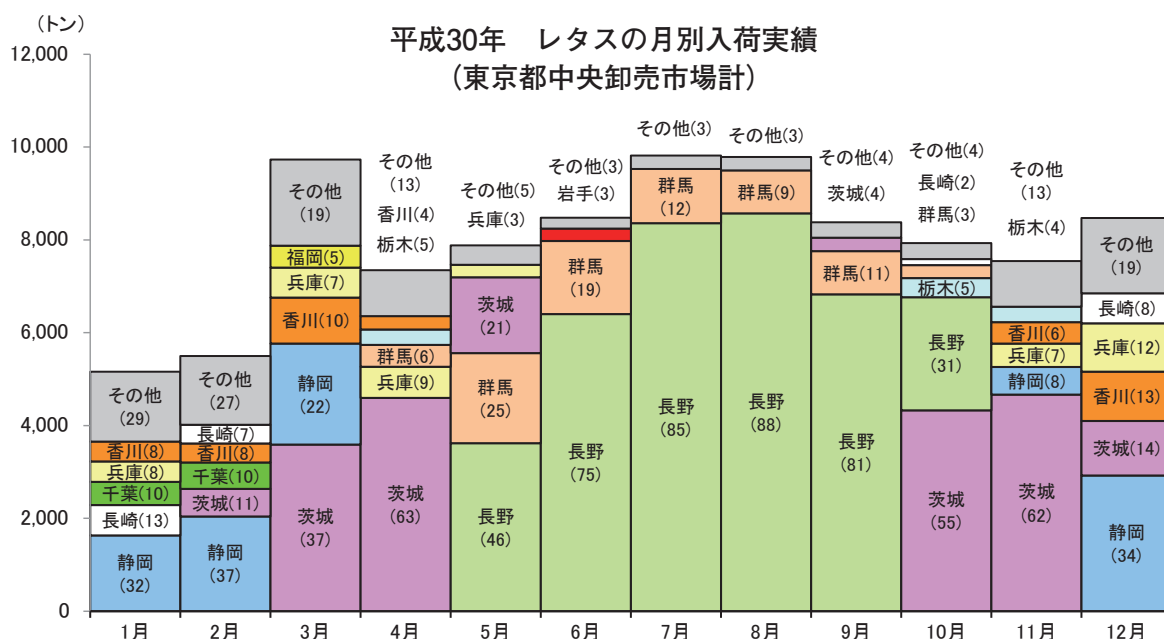
福岡県 ステディ、ラプトル、レガシー、アンドレ

資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成30年）を見ると、6～9月にかけて長野産を中心に群馬産が入荷する。10月以降は茨城産、兵庫県産、香川産、栃木産も入荷する。

12月以降2月までは静岡産が増え、長崎産、近在の千葉産も入荷する。3～5月はふたたび茨城産が増え、徐々に群馬産、長野産に移行する。

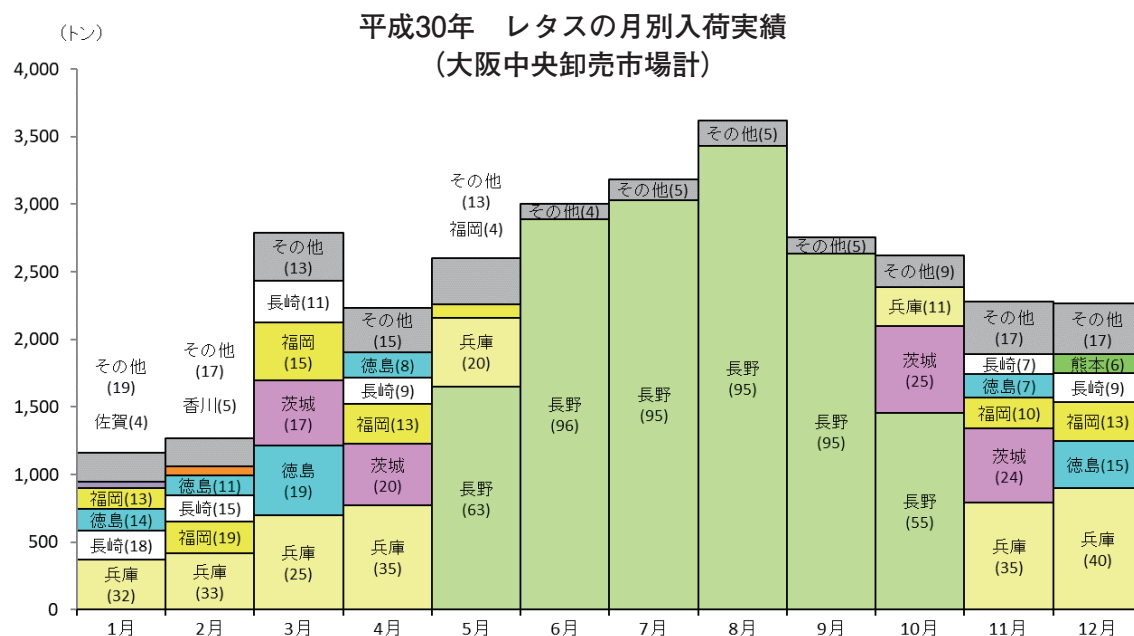


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成30年東京都中央卸売市場年報）

注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成30年）を見ると、5～9月にかけては長野産が中心の入荷となる。10月以降は産地が移行し、茨城産、兵庫産が入荷する。12月

から4月にかけては、西南暖地である兵庫産、徳島産のほか、福岡産、長崎産、熊本産など九州の産地からも入荷している。



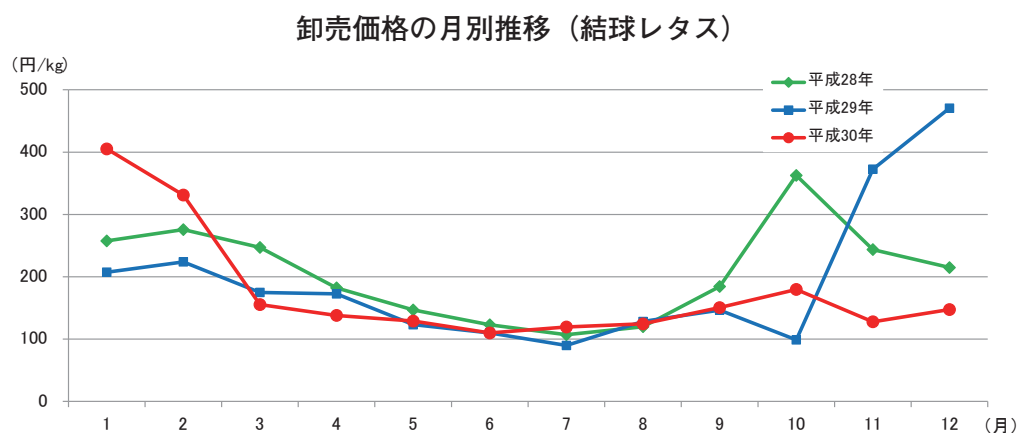
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成30年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）

注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

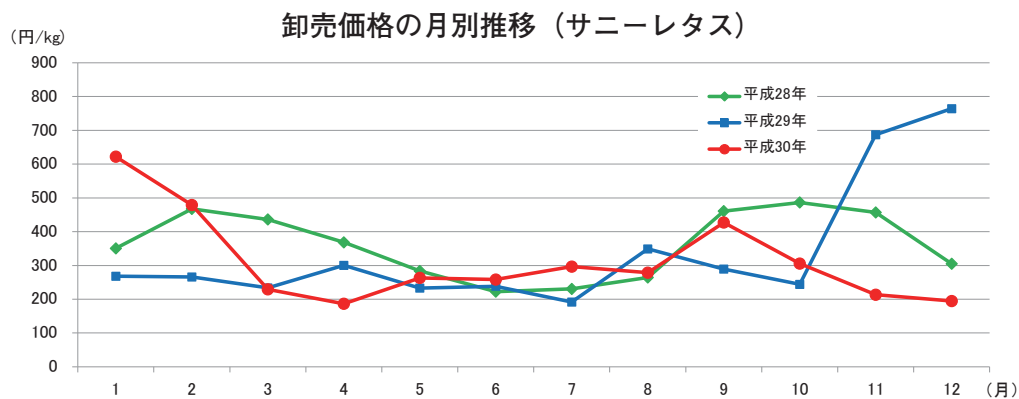
東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における価格は、形態別にみると結球レタス、サニーレタス、リーフレタスの順に高くなる傾向があり、時期的には入荷量が増えてくる3月から下落シピー

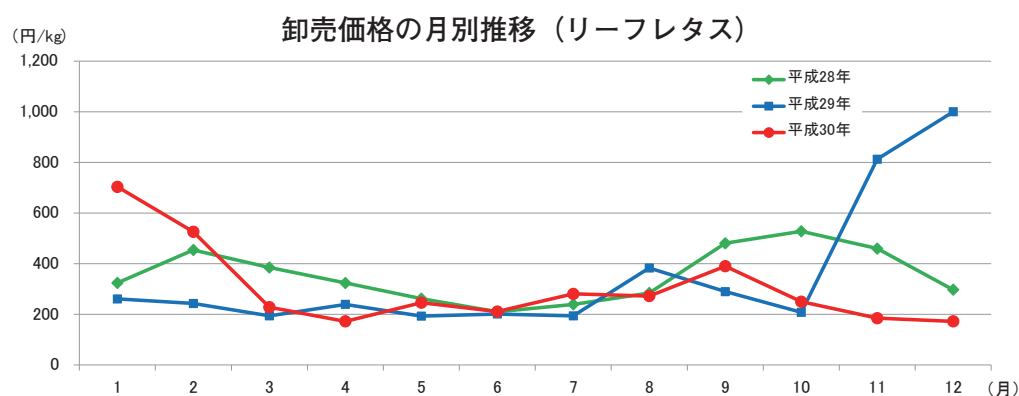
クとなる6～8月に最も安くなり、9月以降、2月にかけて上昇する。なお、平成28年および29年の秋以降は、秋口の台風の影響により冬場に高騰した。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

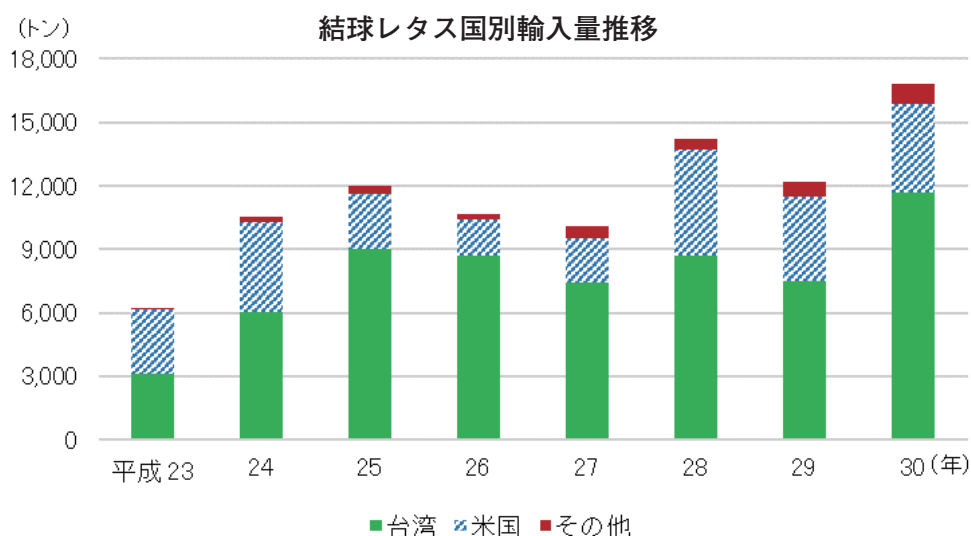


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

輸入量の動向

輸入レタスは、台湾産を中心に米国産も入荷しており、数量は増加傾向である。特に平成28年～30年に関しては国内産が台風およ

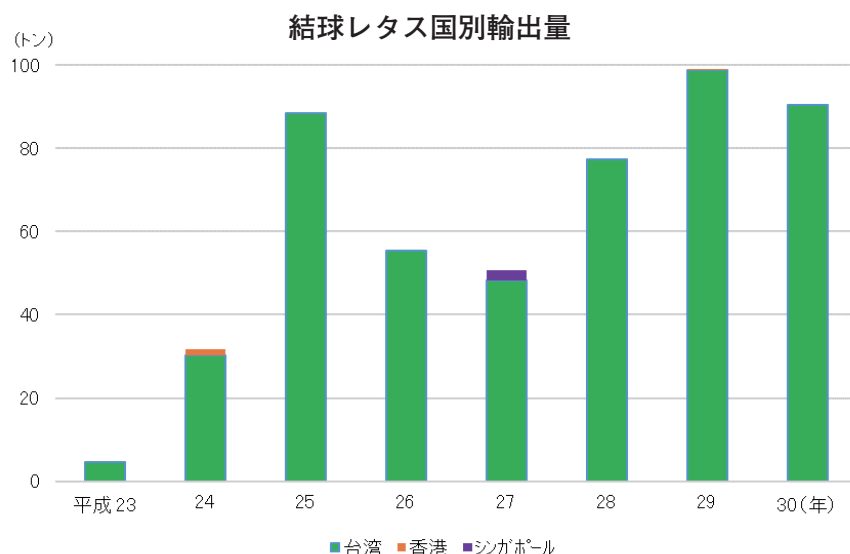
び天候不順の影響を受けたことにより数量が増加した。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

輸出量の動向

輸出量は100トン程度で、ほとんどが台湾向けである。



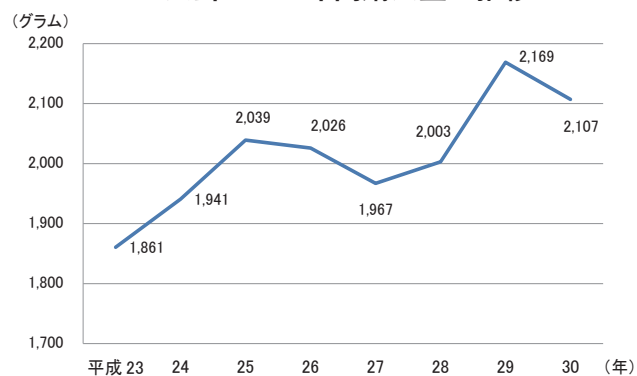
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

レタスの消費動向

レタスは、サラダには欠かせないため、野菜全体の消費量が減少するなか、1人当たり購入量は増加している。小売価格は、キログラム当たり500円前後と安定して推移している。市場関係者からの聞き取りによると、肉厚で歯触りのあるロメインレタスは、米国発祥のコブサラダの人気の高まりに伴って、国内でも生産が伸びているという。

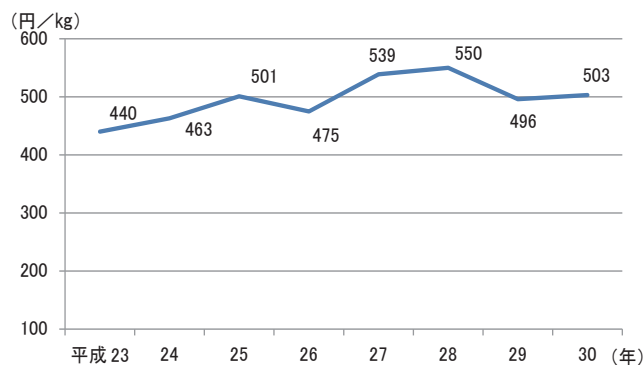
レタスは、水分が多いほか特に骨の形成に欠かせないビタミンK、ナトリウムを体外に派出する作用のあるカリウムが多いのが特徴である。また、サニーレタスなどのリーフ系レタスは結球系よりも色の濃い葉が多く、カリウム、カルシウム、 β -カロテン、ビタミンCが多い傾向がある。

1人当たりの年間購入量の推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）

小売価格（東京都区部）の動向（レタス）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：総務省「小売物価統計調査」